

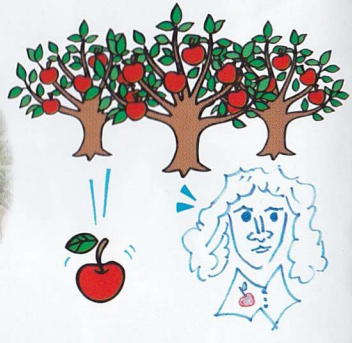
五代目 ニュートンのりんご

日本に渡ってきたニュートンのりんごの木

日本国内での「ニュートンのりんご」親木は、東京大学理学部附属植物園に植栽されイギリスのニュートンの郷里に植えてあったりんごの木の子孫にあたる。1964年に英国物理学研究所長サザーランド博士から日本学士院長の柴田雄次博士に贈られた木を接木したものである。

また、上三依水生植物園の親木は、長野県大町市の(財)大町エネルギー博物館にあり1982年11月、東京大学元総長茅誠司氏の特別な計らいで東大附属植物園から四代目の子孫が贈られたもので、同博物館では、四代目と五代目の「ニュートンのりんご」を所有し、いずれも大切に育成栽培されている。

当植物園の木は、同博物館で1989年4月に植栽されたものが特別な御好意により譲渡されたもので、ニュートンの郷里の庭に植えてあったものから数え五代目の子孫に当たる。



1 ニュートンのりんご
(2011年4月15日植栽)

当植物園の特徴

約22,000平方メートルの園内に植栽された約300種、約3万本の植物観賞や、周辺に点在する野仏郡等の歴史散策が楽しめます。



和風庭園ゾーン 池を中心とした和風庭園内には、地域の村社「熊野堂神社」や日光市天然記念物で「栃木の銘木百選」にも選ばれた大イチョウがあります。

乾生高木林ゾーン ブナ、ナラ、ヤマボウシ、エノキ等の落葉樹とその林床に生息する山野草を中心に植栽されています。

乾生草原ゾーン 乾生高木林ゾーンにつながるやや乾いた部分には、適度な土壌湿度を好む植物を中心に植栽されています。

湿生草原ゾーン 湿生植物池ゾーンにつながるやや湿った草原や水路周辺の湿った草原を好む植物を中心に植栽されています。



湿生植物池ゾーン 湿地や湿原等の植物を集め、土壌湿度の多少で適正植物を分け、湿地を好む植物を中心に植栽されています。

水生植物池ゾーン 植栽する植物を水深によって分類し、それぞれに水深に適する植物を選定し、水を好む植物を中心に植栽されています。

ロックガーデンゾーン 高山の砂礫地等に自生する植物や亜高山帯の落葉樹林の林床に生息する植物を中心に植栽されています。

高原のお花畑ゾーン 高山植物の中でも適度の土壌湿度がある草原を好む植物、やや乾燥した草原に生息する植物を中心に植栽されています。



園内での注意
 ※飲食はご遠慮下さい。
 ※ペットの連れ込みはご遠慮下さい。
 ※柵内への立ち入りはご遠慮下さい。



10 ヒマラヤの青いケン 11 キレングショウマ 12 アジサイ 13 シュウメイギク 14 コマクサ 15 サクラソウ 16 ニッコウキスゲ 17 クマガイソウ 18 オダマキ